

ご存じですか！文化財

28

「平井外記の墓」

市指定史跡
昭和58年3月21日指定



問合せ
北川辺教育事務所
(0280)62・1710



所在地 飯積460 遍照寺

飯積・遍照寺にある光背型聖観音の石像が平井外記の墓とされています。

平井家はもとは武家の家柄でしたが、近世初期には帰農して代々、名主となっていました。

平井外記は高野、大曾、前谷、駒場など北川辺地域ばかりでなく、大利根地域の新田開発に努めました。大利根地域の外記新田に開発者である彼の名がとどめられています。また、同じ大利根地域の弥兵衛新田は外記の娘婿、平井弥兵衛が開墾したと伝えられています。

正保年間(1644～1647)、飢饉がこの地を襲い、多くの餓

死者が出ました。万策尽きた外記はあえて領主の法度に背き、米倉を開き、飢えた農民を救済しました。

しかし、そのため家は取り潰しになり、外記もその責任を取って潔く自刃したのです。

農民たちはそろって助命嘆願を申し立てたため、かろうじて罪一等を減じて末娘の一人だけ助かり、平井家断絶という最悪の事態だけは避けられたと伝えられています。

外記の自刃は正保4(1647)年8月6日のことでした。遍照寺の石仏にその日付を読み取ることができます。



紹介者 渡辺 章さん(向古河)